

平成28年9月28日（水）「第2回 地域づくり小委員会」が開催されました。

■開催概要

「第2回 地域づくり小委員会」が平成28年9月28日(水)に釧路地方合同庁舎5階共用第1会議室で開催されました。

小委員会には、27名（個人9名、12団体12名、関係行政機関6機関6名）（一部兼任）が出席し、一般の方も傍聴されました。

議事では、事務局から第1回地域づくり小委員会のまとめの報告、地域づくり小委員会参加団体から取り組み状況の報告がありました。

その後、地域づくり小委員会の当面の検討事項に係るアンケート実施結果について事務局から説明したのち、小委員会で議論したいことや小委員会の進め方について話し合わせ、活発な意見の交換が行われました。



▲第2回 地域づくり小委員会（平成28年9月28日）

■地域づくり小委員会とは

地域づくり小委員会は、地域産業と連携した湿原のワイズユースにより、湿原を保全・再生し、将来にわたり地域産業が豊かになる取組を進めるために設立されました。今後は、賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方と、湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について、議論を進めていく予定です。

1 第1回地域づくり小委員会のまとめの報告について

事務局から、以下の項目毎に第1回地域づくり小委員会のまとめの報告が行われました。

- ①地域づくり小委員会の進め方に関する意見
- ②観光などの地域振興による湿原の賢明な利用に関する意見
- ③地元産業との連携の検討に関する意見
- ④湿原の利用に関するガイドライン・ルールづくりに関する意見
- ⑤産業や暮らしにおける環境や景観への配慮に関する意見

2 地域づくり小委員会参加団体の取り組み状況の報告について

地域づくり小委員会参加団体の取り組み状況として、(一社)釧路観光コンベンション協会から釧路湿原散策ツアーの紹介、NPO法人タンチョウ保護研究グループから地域づくり活動の説明などが行われました。

3 地域づくり小委員会の当面の検討事項に係るアンケート実施結果について

事務局から、以下の設問毎にアンケート実施結果について説明が行われました。

- ①賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について
- ②湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について
- ③今後の議論の進め方について
- ④その他委員の皆さんと話し合いたいことなど

4 今後の地域づくり小委員会の進め方について

アンケートの実施結果を基に地域づくり小委員会の進め方について、活発な意見の交換が行われました。

情報の共有・整理を目的としたワークショップを行うことなどが提案されました。

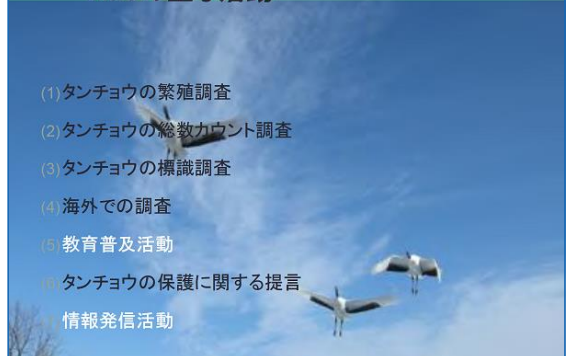
○(一社)釧路観光コンベンション協会・釧路湿原散策ツアー



○NPO法人タンチョウ保護研究グループの地域作り活動

RCCの主な活動

- (1)タンチョウの繁殖調査
- (2)タンチョウの総数カウント調査
- (3)タンチョウの標識調査
- (4)海外での調査
- (5)教育普及活動
- (6)タンチョウの保護に関する提言
- (7)情報発信活動



5 意見交換

委員間で意見交換・提案等が行われました。

このようなことが話し合われました。

■ 委員長 ● 委員

【地域づくり小委員会の当面の検討事項に係るアンケート実施結果について】

- これまでの湿原との向かい合い方は、人の暮らしと「VS」であったが、これからは「共生」。自然の恵みを人間の社会が上手に頂けないかというスタンスでいられればよい。湿原と人の暮らしが相容れないものではなく、新しい価値を見いだせる委員会になればよいと思う。
- 釧路湿原の役割としては、知床のような100%ピュアな自然ということではなく、人間が参加しながら循環の輪を断ち切らないということ。循環型の経済・社会・自然再生にどう繋げていくのかというのが、釧路湿原が国立公園になった最も大きな意義ではないかと考えている。
- 釧路湿原は国立公園という枠があり、出来ることと出来ないことがある。そこを明確にした上で循環型の観光・産業などを考える必要がある。どこまでが今生きている我々にとって許されるのか、将来、子孫にどのような形で残していけるのかが、我々が決める上で大きなポイントだと思う。

【今後の地域づくり小委員会の進め方について】

- アンケート結果や議論されていた内容を見て多岐にわたる意見が出されており、地域づくりということを考える上でテーマになることがたくさんある。これからテーマをいくつかしぼってグループに分かれて議論するという形が考えられるが、その前段階として、情報を出し合って共有したら良いと考える。アンケート結果や課題などを地図上に落とし込んで視覚的に分かりやすくし、情報整理したら良いのではないかと。まだ皆さんと一緒に議論しようという雰囲気や形もとれていないので、グループに分かれて、今現在の活動の現状、課題、やりたいことの3つくらいをテーマに、委員間の交流と情報の共有・整理を目的としたワークショップを行うことを提案する。

- ワーキンググループに分かれて作業を進めるのは良い考えだと思う。その際にグルーピングは網羅的なグループを作って頂きたい。例えば経済や農林業に関するもの、観光に関するものなどいろいろあると思うが、事務局と委員長に網羅的なグルーピングを作ってもらい、人を割り振って頂ければと思う。
- たくさんの人数では議論が深まらないので、グループに分かれる。各グループについては、特定の層に偏らず、幅広く網羅的にバランスのとれたグルーピングでという意見。異論もないようなので、そのような形で進めさせて頂く。この小委員会の具体的な進め方として、「自然再生・ワイズユースを前提にした観光」と「農業・漁業その他産業との連携」と大きく二つのテーマが設定されているので、それをベースにして各委員の希望も取りながらグループ分けをさせて頂き、それぞれのテーマで議論して、その結果を小委員会で共有し、議論するような形で進めたい。大きなテーマやグループ分けについては、事務局と相談の上、提案させて頂き、皆さんと決めていくこととする。

アンケート内容	
設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について	■うまく資源を活用するアイデアや、地域活性化のために議論したいことは？ ■湿原の環境を維持しながら湿原を利用するための必要と考えることや、地域づくり小委員会で作りたいガイドライン・ルールなどは？ ■観光商品開発・湿原利用ガイドライン・観光支援施策 など
設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について	■「地元産品と他の団体が協力すると、こういう事ができるのではないかと」というアイデアや、あなたが「地元産品へ、こんな協力をしたい」と考えていることは？ ■将来に渡って釧路湿原を利用していくために、産業者地域のくらしの中で環境や景観を守るために必要だと感じていることは？ ■「自然再生活動への取組・湿原保全活動による生産品のブランド価値向上策 など」
設問③ 今後の議論の進め方について	■今後の地域づくり小委員会での議論の進め方や、方向性について何かご意見がございましたら、ご記入ください。
設問④ その他	■その他、委員の皆さんと話し合いたいことや等があれば、自由にご記入ください。

第2回地域づくり小委員会【出席者名簿（敬省略、五十音順）】

個人【9名】

亀山 哲 清水 信彦
神田 房行 平岡 俊一
木塚 俊和 平間 清
櫻井 一隆 吉野 邦彦
佐野 修久

関係行政機関【6機関/6名（一部兼任）】

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部【次長 岡田 務】
環境省 釧路自然環境事務所【国立公園課 課長補佐 杉本 頼優】
林野庁 北海道森林管理局【釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長 志村 賢二】
北海道 釧路総合振興局【保健環境部環境生活課自然環境係長 高橋 克巳】
釧路市【産業振興部観光振興室長 三富 尚孝】
釧路町【経済部産業経済課商工観光係 主査 浜辺 大輔（釧路川流域町村観光推進協議会と兼任）】

団体【12団体/12名（一部兼任）】

一般社団法人 釧路観光コンベンション協会【専務理事 田中 正】
株式会社 マーシュ&リバー【代表取締役 斉藤 松雄】
釧路川水質保全協議会【釧路市上下水道部 技師 荒川 直子】
釧路川流域町村観光推進協議会【事務局 浜辺 大輔（釧路町と兼任）】
釧路観光連盟【専務理事 夏堀 勝治】
釧路湿原・阿寒摩周シーニックバイウエイ【酒田 浩之】
釧路シャケの会【会長 小杉 和寛】
国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム【上席研究員 新目 竜一】
鶴居村商工会【参事 浦嶋 良明】
特定非営利活動法人 EnVisio n 環境保全事務所【渡會 敏明】
特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ【井上 雅子】
特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元氣村【事務局長 佐藤 吉人】

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro_wetland/index.html

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL(0154)23-1353

FAX(0154)24-6839